

---

# 有 恒 高 校

~3年間の思い出~

金澤幸那

---

## 有恒高校ってどんな高校？

---



板倉区にある自然に囲まれた歴史深い学校で、創立127年目を迎えた。

人数は少ないが少ないからこそその良さがある。1つ目は生徒と先生の距離が近く、授業などでわからない事あればすぐに聞けることだ。また、有恒高校特有の学び合いの授業がある。学び合いとは、わからないことがあれば友達に聞きに行ったり、逆にわからない友達がいたら教えたりすることだ。また、学び合いは全員達成を目標として勉強をする。目標達成のため誰1人として見捨てないことが大切だ。わからないことを教えてもらいながら教える側も理解を深めることができ、WINWINの関係が生まれる。実際に学び合いをしてみて気軽に質問することができるので自分に合った学習法だと思った。

2つ目は行事での団結力が上がることだ。人数が少ない分、1人1人が協力をしなければ勝つことができない。その時に発揮される団結力は有恒生にしか出せないものだと私は思う。

有恒の「有」とは胸にある、つまり心に持つこと

「恒」とは常に変わらない心を意味している

# 増村朴齋先生

増村朴齋先生(本名度次)は1868年(明治元年)、針村(現板倉区針)で次男として生まれた。朴齋先生は針小学校に入学後8歳で諏訪神社大幟の文字を書き、11歳で漢詩を作るなど村民から神童と称された。14歳で上京した朴齋先生だが、1885年(明治18年)、再び上京した。ここで郷土子弟を育てる夢を育み、とくに明六社の啓蒙思想家西村茂樹から有恒学舎教育の支柱となる道徳至上主義を学んだ。

この教えは、「先公後私」など有恒精神「三綱領」として現在も受け継がれている。



1895年(明治28年)、朴齋先生は新潟県から有恒学舎設立認可を受け、翌年4月10日針の浄覚寺を仮校舎に有恒学舎を開学した。5月には勝海舟が書いた「有恒学舎」の額が届けられた。

学舎設立後は自ら倫理の授業を受け持ち、力量ある教師を全国から招いた。会津八一は1906年(明治39年)から4年間英語教師として教壇に立った。また、新渡戸稲造、徳富蘇峰ら多くの著名人が学舎を訪れた。

1921年(大正10年)朴齋先生は新潟県教育会長に就任し、その後も中頸城郡教育会長など要職を務め郷土の教育に尽力した。

朴齋先生は1942年(昭和17年)、74歳で亡くなったが、有恒学舎は1964年(昭和39年)県立有恒高等学校となり、朴齋先生の建学精神は引き継がれた。

# 三綱領五学規

## 三綱領

一、君子は義に喻り小人は利に喻る。

学徳のある立派な人は正義（道徳）に敏感であるが、普通の人には、利益になるかならないかというように考えるものだ。

一、人為さざるありて而る後に以て為すあるべし。

人はしてはならぬことを断じてしないという精神があつてこそ、後、なすある力（良いと思つたことに死力を尽くす力）が出て十分に立派な働きができるものである。

一、公を先にし私を後にす。

社会・公共の利益となることは、私利・私欲よりも先に考えてすべきものである。

## 五学規

一、志気充実にして操守堅固なるべし。

「志気」とは己のなすべきことを実行する力。「操守」とは心変わりしないこと。一度心に決めたことは、気持ちを引き締め、むやみに変えてはいけない。

一、質朴剛毅の風を養い深く懦弱と軽薄とを戒むべし。

「質朴」とは素直で飾り気のないこと。「剛毅」とは内心のしっかりしていること。「懦弱」とは心が弱くぐったりしていること。素直な心を持ち、意志が強くならなければならぬ。弱音を吐いたり、軽はずみであつたりするな。

一、礼讓を重んじ虚飾の風を除くべし。

「礼讓」とは礼儀正しくし、相手を重んじひかえめなこと。「虚飾」は内容が欠けてうわべだけ立派なこと。礼儀正しくし、うわべだけ飾ろうと思ふな。

一、勤勉励精生徒たるの本分を尽すべし。

「勤勉」とは仕事や勉強に一心に励むこと。「励精」とは精を出して励むこと。生徒は先生の指導に従つて一生懸命学業に励め。

一、摂生に注意し身体の強健を図るべし。

「摂生」とは衛生に注意し健康の増進を図ること。健康に注意し、健やかで丈夫な体をつくれ。

# 私が高校生活で思い出に残っていること

## 1. 生徒会活動

私は、元々目立ったことをするのが嫌いだった。そのため小学校から中学校までの9年間これと言って目立ったことはしてこなかった。しかしそれでは就職をする際に不利になると思い始めた。上に述べた通り目立ったことが嫌いだったが自分を変えるために意を決して生徒会に所属した。いつも指示される側だったため、企画・準備などももちろんしたことがなかった。所属当初は何をして良いのかがわからなかったが、活動の回数を重ねるごとに何をすべきかを理解した。企画・準備をするのは少し難しかったが楽しく感じるようになった。月日は経って生徒会で副会長になることを先生に勧められた。自分の中でこんな大役が果たせるか不安だったが、立候補することにした。実際に副会長らしいことはできなかったと思うがとても良い経験になった。生徒会を通して、たくさんのことを学び、自分をとて成長させるきっかけになった。

## 2. 文化祭

2、3年生の文化祭では動画を作って発表した。2年とも動画編集をしたのだが、簡単にできることではなかった。動画編集は素材が集まらないと編集ができない。素材が集まり始めたのは、本番の1週間程前だった。1週間で動画を作れるかとても不安だった。実際に本番の2日前まで完成していないことがあった。編集が終わらないと文化祭で見せるものが何もないため、休日はもちろん、平日でも午前4時くらいまで編集していたこともあった。しかしその甲斐があったため動画を完成させることができた。大変だったことの方が多かったが、完成した時の達成感はとても印象に残るものだった。

## 3. 就職活動

就職に向けて、先生や先輩、外部からのお話やご指導をしてもらった。特に印象に残っているのは面接練習だ。夏休みにも学校へ来て何回も練習した。自分のことを聞かれるわけだから自分のことについて理解するのが難しかった。自分はどんな人なのか、どんなことをするのが好きで、何が得意なのか。練習を重ねるたびに自分はどんな人なのかわかってきた。自己理解とはこんなに難しいものなのかと実感した。また、苦手なこともしつかりわかったのでこれからの人生に役立てていきたい。

## 3年間を振り返って



有恒高校HP写真引用

3年間を有恒高校で過ごして自分を成長させる場面が様々なところであった。また、挑戦したことがなかったことにも挑戦することができ、自分の新たな一面を見つけることができた。3年間楽しいことばかりではなかったが、学ぶことがたくさんあった。

3年生の 때가1番忙しく、これからの人生に関わることを選択しなければならなかったもので、とても難しかった。また、1年生の時から今までの成果が関係してくるので後悔しないように勉強に励んだり、欠席をあまりすることなく登校できたことは、就職するにあたって自分の中でとても良い点だったと思う。これから就職活動をする1、2年生には進路決定する際、後悔しないように高校生活を送ってほしいと思う。

有恒高校で過ごした日々はとても充実したものとなった。残り少ない学校生活ではあるが、引き続き笑顔で過ごしたい。